

横地城東の城 遠景

# 菊川の歴史が息づく 横地氏城館跡

菊川市が誇る国指定史跡「じょうかんいせきぐん菊川城館遺跡群」。その史跡を構成する遺跡の一つである横地氏城館跡は、よごちしじょうかんあと中世武士の生活や権力構造を今に伝える貴重な歴史遺産です。今回は横地城の魅力を紹介するとともに、令和6年度から本格的に始まった史跡整備についてお伝えします。この機会に横地城の魅力に触れてみませんか？

**問い合わせ** 社会教育課文化振興係（埋蔵文化財センターどきどき内 ☎73-1137）

## 市内唯一の国指定史跡

菊川城館遺跡群は、横地氏城館跡と高田大屋敷遺跡という二つの中世城館跡からなる国指定史跡です。静岡県南西部の菊川中流域を舞台に、平安時代末期から室町時代にかけて活躍した武士たちの姿を、今に伝えています。

横地氏城館跡は、有力御家人であった横地氏の本拠地です。有事の際に立てこもるための山城が築かれた他、居館や寺院、墓地などが営まれたことが判明しています。横地氏は中世に大きく発展していきますが、1476年に、戦国大名今川義元の祖父・今川義忠の攻撃により滅ぼされました。

一方、高田大屋敷遺跡は、内田莊地頭である下郷内田氏の居館跡で、西側に堀、北・東側に河川を配した中に土塁で囲まれた方形居館です。

この二つの遺跡は、当時の有力武士が地域の中でどのように拠点を築き、支配し、暮らしていたのかを

知るうえで、非常に重要な価値を持っています。

特に、単に城跡が残っているだけではなく、居館や寺院など、中世武士の本拠地における発展過程と空間構造の変化が、地域の中でまとまりをもつて把握できることが大きな特徴です。このような遺跡のあり方は、中世武士の存在形態を示す好例として歴史的にも高く評価されています。

こうした歴史的価値から、菊川城館遺跡群は、平成16年9月30日に国の史跡に指定されました。菊川市を代表する文化財であると同時に、国民共有の大切な歴史遺産でもあるのです。

菊川市

高田大屋敷遺跡  
(下内田地内)



横地氏城館跡  
(東横地3533-1)